



新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

1月号

平成31年1月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail soumu@nakanosogo.or.jp

第355号

発行人/理事長 入江 徹也

発行責任者/総務課長 横井 悟

新年のご挨拶

新渡戸記念中野総合病院 理事長兼病院長 入江 徹也

新年あけましておめでとうございます。2019年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。2019年正月は「新渡戸記念中野総合病院」と病院名が改名されてから4回目の新年になります。昨年6月に総代選挙が行われ、新たに選出された総代による「新体制の東京医療生活協同組合」がスタートしました。新総代による総代会の挨拶の中で私は「皆様と共に活動するこの3年間で、将来の東京医療生活協同組合の命運を決めることになり」と申し上げたことを記憶しております。特に本年は、今後の活動を行う上で最も大切な年であると考えます。

話は遡りますが、病院名を「新渡戸記念中野総合病院」と改名したことには2つの目的がありました。そのひとつは、「新渡戸稲造博士の精神(誠意と思いやりの心)を基にした医療を誠実に実践し疾病を抱えた人を真心で支援する」ことを日常医療の精神的支柱としながら、「救急医療を中心とした質の高い医療」「地域に根差し地域に貢献する医療」を提供することです。そのために、「くみあい保険薬局の閉鎖」「療養病棟の閉鎖及び一般病棟開設による完全急性期病院化」「診療スペース拡大のための2号館建設」「医局の2号館への移転(診療スペース拡大事業)」「リハビリテーション室の院内移転」「心臓カテーテル室設置」「循環器内科開設」「血液内科開設」「神経内科拡充・新渡戸脳研開設」「新専門医制度内科基幹施設選定」「7体1看護体制取得」、そして「電子カルテ導入」を行いました。2018年は「病院名改名が目的としていた医療体制」が

漸く整ってきた年と位置付けられると思います。病院名改名のもうひとつの目的は「新病院建設」です。新渡戸博士達が創業した歴史のある病院を次世代に引き継がなければなりません。新渡戸博士の名前を病院名に冠することで「新病院建設」に立ち向かう決意を新たにしました。しかしながら、「新病院建設」は単に建物を新しくするのみではなく、同時に「病院の質」を高めなければなりません。これは「救急医療を中心とした質の高い医療」「地域に根差し地域に貢献する医療」を真に提供できる病院にするということです。病院名改名の2つの目的がここでひとつになりました。けれども、我々が目指す理想の病院という目的地はまだまだ遙か遠くにあります。2018年は「電子カルテ導入」に伴う多くの問題に遭遇しましたが、逆に、希望の光が見えた貴重な1年でもありました。2019年は「病院の体力」を培うことによって「新病院建設」に向けて確とした新たな第一歩を踏み出す年にしなければならないと思います。

新渡戸博士の著書『一日一言』の1月1日の言葉「初めの一步:踏み出した一步は、もう道の半まで来たようなものである。何事も最初の一步が大事である。花はすでに芽の中にあり、人の性格は三つ兎から始まる。今年の事業は今日(一月一日)の決心の中から起こるものである(以下伊藤仁斎の和歌一首、略)」が心に響きます。どうか皆様には本年も温かいご指導・ご支援をいただきますよう心よりお願い申し上げます。



中野区医師会病診連携をすすめる会

11月29日19時より中野サンプラザにおいて、中野区医師会主催の病診連携をすすめる会が開催されました。当院も医師・看護師・医療連携担当スタッフが参加し、区内の病院・診療所の先生方と意見

交換させていただきました。今後もかかりつけ医となる診療所の先生方と病院の連携を強化し、スムーズな診療・退院支援ができるよう努めて参ります。



部分防災訓練を行いました

10月27日の土曜日、午後2時30分から1階フロア、地下フロアで、休日の昼間を想定した火災訓練を行いました。休日や夜間は職員の数が少なく、限られた人数での対応となります。1階生理検査室を火元として、休日に勤務している地下



と1階の職員11名と、各所に配置した模擬患者6名の総勢17名で訓練開始です。看護師が火災を発見し、周りに周知。看護科長の指示のもと、各職員が消火、消防署への通報、院内放送での火災の周知、患者さんの避難誘導を手分けして行いました。

病院ではこのような訓練を定期的に行い、毎月開催されている防災委員会で訓練の検証、反省をして、患者さんや来院される皆様の安全を守ることに務めています。(文責 施設課長 小林 則人)

いきいき体操 5

ストレッチ:背中~肩甲骨編

リハビリテーション室 技師長 柳澤 正也

前回に続き今回も、背中から肩甲骨周囲の筋肉のストレッチです。椅子に正しい姿勢で腰かけて、肩甲骨を大きく動かしているイメージでゆっくり行いましょう。「肩と肩甲骨の筋肉のストレッチ」は動かしづらいので無理せず、また「肩回し運動」は肘で円を描くように動かしてみましよう。

簡単でも無理せず、勢いをつけず、呼吸を止めずに「ジワー」といった感じでソフトに伸ばしましょう。「過度なストレッチは逆効果」、まずは1日3回、1回の目安は5分程度から体をならします。例えば、朝は日常生活で体を動かした後、昼は空き時間、夜は就寝前などと日課として時間を決めると習慣になり、継続しやすいです。

ご注意!

ストレッチしてもいいかな、と心配のある方は、必ずかかりつけ医または当院整形外科に受診してから行いましょう。

肩と肩甲骨の筋肉のストレッチ

20回×3セット

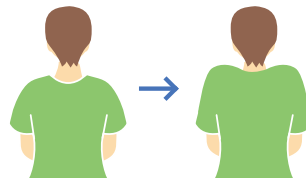


筋肉を伸ばしたいほうの肩を上げて、頭の後ろで肘を曲げます。反対側の手を肘にかけて、ゆっくり伸ばします。

前かがみにならないように!

肩の上げ下げ運動

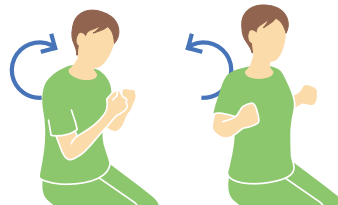
20回×3セット



腰かけた姿勢で、肩の上下運動を行います。

肩回し運動

20回×3セット



肩をゆっくり大きく回します。

第20回 新渡戸記念中野総合病院 区民健康講座のお知らせ

テーマ 「転倒」～転ばないように日頃から準備できること～

日時 平成31年3月16日(土)

講師 新渡戸記念中野総合病院 リハビリテーション室 技師長 柳澤 正也

場所 東京都生協連会館3階会議室

定員 50名(定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます)

参加申し込み先 患者支援センター 連携担当 ☎03-3382-1231(内線211)
または総合受付④番窓口



1月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

***血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。**

1月1日から31日までの準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

受付時間 毎日午後**6時30分**～午後**9時45分**

診療時間 毎日午後**7時**～午後**10時**

夜間受付 ☎**03-3382-9991**

1月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
		1 清水 泰岳	2 右田 王介	3 亀井 宏一	4 清水 泰岳	5 保崎 明
6 右田 王介	7 小須賀 基通	8 由良 明彦	9 細谷 直人	10 堤 範音	11 亀井 宏一	12 清水 泰岳
13 清水 泰岳	14 右田 王介	15 高梨 栄	16 高梨 栄	17 齊藤 直子	18 清水 泰岳	19 亀井 宏一
20 清水 泰岳	21 小須賀 基通	22 高田 功二	23 佐和田 哲也	24 堤 範音	25 亀井 宏一	26 右田 王介
27 右田 王介	28 小須賀 基通	29 細谷 直人	30 渡辺 仁	31 齊藤 直子		

新渡戸記念を支える

職場紹介

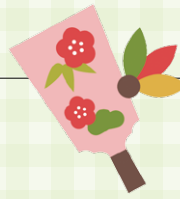
見えないところで院内の安全を守っています！ 施設課

施設課長 小林 則人

施設課は5名が在籍しています。病院の建物および建物付属設備の管理点検が大きな業務のひとつです。設備の点検等は、常駐しています設備管理委託会社と連携をとりながら管理しています。病院の建物は築50年以上が経過して、不具合が発生する頻度も高くなっていますが、迅速に対応することを心がけ、また日常点検の中で未然に防げるよう努力しています。

その他に、病院から排出される廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物・医療廃棄物等)を認定業者に委託廃棄して、マニフェストによる管理もしています。また、院内の防災委員会の事務局も担い、災害時に対応できるよう職員の防災訓練の企画・立案を行っています。

見えないところで院内の安全を守っていますので、どうぞよろしくお願いします。



新渡戸 の 言葉

年初めの「新渡戸の言葉」は、文語調の原著『一日一言』(1月1日付)からの掲載です。伊藤仁斎は江戸初期に『論語』を原著から読み解き、“人間はどうやって暮らすのが正しいか”という生き方を説いて、様々な身分の者が弟子になった儒学者で(小林秀雄)、仁斎の一首は元旦を詠んでいます。新渡戸先生の言葉は広く事始めを表しています。なお、下句の最後「……過ぎてしがな」の現代語訳は「過ごしたいものだ」です。

当院の事始めは、関東大震災の9年後廃墟から復興した東京で、昭和7年に新渡戸稲造博士が初代組合長(理事長)、賀川豊彦氏が専務理事の体制のもと、「東京医療利用組合」(当時)として創立されました。発起人会の挨拶で、新渡戸先生は次のように語りかけました。「私ども発起人はパイオニアであります……私どもは金力がなくとも正しい動機によってなされたものは、かように立派に成功するというを天下に示さなければなりません」。新渡戸稲造先生の遺産である当院で働くことを誇りとして、私共は創立者の志を次世代へ引継いでいく覚悟です。

最近院内では病院の質を高め、新病院を内側から建設するための取り組みを、以下の標語のもとに始めました。

本年もご指導のほど宜しくお願いいたします。

「踏み出そう新たなステージへ みんなの力が新渡戸の未来」

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄

初めの一步は道の半ななかに当る。何事も出やうが
大切。花は芽にあり、大人の心は三つ児に始
まる。今年の事業は今日の心に起る。
ひととせを皆今日の心地して
のどかに世をも過してしがな
(伊藤仁斎)

新渡戸稲造『一日一言』